

平成14年度文部科学省「21世紀COEプログラム」研究拠点形成費補助金

(京都大学 機関番号14301 整理番号D-2)

(拠点番号 D10)

心の働きの総合的研究教育拠点

Center of Excellence for Psychological Studies

平成18年度活動報告書

2007年3月

京都大学心理学連合

Kyoto University Psychology Union

研究拠点の名称

心の働きの総合的研究教育拠点

Center of Excellence for Psychological Studies

(京都大学 機関番号 1 4 3 0 1 整理番号 D-2)

(拠点番号 D-10)

研究拠点形成費

平成 14 年度 182,000 千円

平成 15 年度 135,000 千円

平成 16 年度 108,300 千円

平成 17 年度 108,900 千円

平成 18 年度 100,782 千円

学内関連部局

文学研究科 (行動文化学専攻 心理学専修)

教育学研究科 (教育科学専攻 教育認知心理学講座、教育方法学講座/
臨床教育学専攻 心理臨床学講座、臨床教育学講座)

人間・環境学研究科 (共生人間学専攻 社会行動論講座、認知科学講座、
行動制御学講座)

*高等教育教授システム開発センター (高等教育教授システム研究開発部門)

*生物科学研究科 (霊長類学専攻 思考言語分野)

注) * は協力部局である

研究組織

研究課題 A チーム 「イメージと表象の性質と機能」

研究課題 B チーム 「身体化される心」

研究課題 C チーム 「文化・社会的環境との相互作用」

研究課題 D チーム 「進化と生涯発達」

構成メンバー（*は研究協力者、それ以外は事業推進担当者）

氏名	専攻	専門	チーム
藤田 和生	文学研究科（行動文化学専攻）教授	比較認知科学	D, A, 拠点リーダー
苧阪 直行	文学研究科（行動文化学専攻）教授	知覚心理学	A(チームリーダー)
櫻井 芳雄	文学研究科（行動文化学専攻）教授	認知神経科学	A
楠見 孝	教育学研究科（教育科学専攻）助教授	認知心理学	A, B
齊藤 智	教育学研究科（教育科学専攻）助教授	認知心理学	A(チームサブリーダー)
*岡田 康伸	教育学研究科（臨床教育学専攻）教授	心理臨床学	A
*皆藤 章	教育学研究科（臨床教育学専攻）助教授	臨床教育学	A
河合 俊雄	教育学研究科（臨床教育学専攻）教授	心理臨床学	A, B
*川部 哲也	教育学研究科（臨床教育学専攻）助手	心理臨床学	A
*藤原 勝紀	教育学研究科（臨床教育実践研究センター）教授	臨床心理実践学	A
*大山 泰宏	高等教育教授システム開発センター助教授	臨床教育学	A(チームサブリーダー)
船橋 新太郎	人間・環境学研究科（共生人間学専攻）教授	認知神経科学	A, B
齋木 潤	人間・環境学研究科（共生人間学専攻）助教授	認知科学	A
*山本 洋紀	人間・環境学研究科（共生人間学専攻）助手	視覚心理学	A
*久代 恵介	人間・環境学研究科（共生人間学専攻）助手	認知神経科学	A
伊藤 良子	教育学研究科（臨床教育学専攻）教授	臨床心理実践学	B(チームリーダー)
蘆田 宏	文学研究科（行動文化学専攻）助教授	認知心理学	B(チームサブリーダー)
吉川 左紀子	教育学研究科（教育科学専攻）教授	認知心理学	C(チームサブリーダー), B
*角野 善宏	教育学研究科（臨床教育学専攻）助教授	臨床心理実践学	B
*和田 竜太	教育学研究科（附属臨床教育実践研究センター） 特任助手	臨床心理実践学	B
松村 道一	人間・環境学研究科（共生人間学専攻）教授	認知神経科学	B(チームサブリーダー)
*田中 康裕	教育学研究科（臨床教育学専攻）助教授	心理臨床学	A
杉万 俊夫	人間・環境学研究科（共生人間学専攻）教授	社会心理学	C(チームリーダー)
桑原 知子	教育学研究科（臨床教育学専攻）助教授	心理臨床学	C(チームサブリーダー), B
渡部 幹	総合人間学部（共生人間学専攻）助手	社会心理学	C
山田 洋子	教育学研究科（教育科学専攻）教授	生涯発達心理学	D(チームリーダー), C
板倉 昭二	文学研究科（行動文化学専攻）助教授	発達認知科学	D(チームサブリーダー), B
子安 増生	教育学研究科（教育科学専攻）教授	発達心理学	D
*遠藤 利彦	教育学研究科（教育科学専攻）助教授	生涯発達心理学	D
*松沢 哲郎	霊長類研究所（思考言語分野）教授	比較認知科学	D, C
*友永 雅己	霊長類研究所（思考言語分野）助教授	比較認知科学	D, A
*田中 正之	霊長類研究所（思考言語分野）助手	比較認知科学	D(チームサブリーダー), A

目次

はじめに	1
プロジェクトの内容	3
各研究チームの成果の概要	11
融合研究グループの成果の概要	18
海外拠点形成成果報告	29
シンポジウム、ワークショップ、講演会の開催記録	34
大学院生交流と若手研究者養成プログラム	55
修士論文及び博士論文	59
外部評価	64
業績	86
添付論文	99

研究課題A 「イメージと表象の性質と機能」

- Komeda, H., & Kususmi, T. (2006). The effect of a protagonist's emotional shift on situation model construction. *Memory & Cognition*, 34, 1548-1556.
- Ban, H., Yamamoto, H., Fukunaga, M., Nakagoshi, A., Umeda, M., Tanaka, C., & Ejima, Y. (2006). Toward a common circle: Interhemispheric contextual modulation in human early visual areas. *The Journal of Neuroscience*, 26, 8804-8809.
- Saiki, J., & Miyatsuji, H. (2007). Feature binding in visual working memory evaluated by type identification paradigm. *Cognition*, 102, 49-83.
- Watanabe, K., Igaki, S., & Funahashi, S. (2006). Contributions of prefrontal cue-, delay-, and response-period activity to the decision process of saccade direction in a free-choice ODR task. *Neural Networks*, 19, 1203-1222.
- Kushiro, K., & Maruta, J. (submitted). Three-dimensional computation during off-vertical axis rotation (OVAR) in monkeys.
- Kawai, T. (2006). Postmodern consciousness in psychotherapy. *Journal of Analytical Psychology*, 51, 437-450.
- Sakurai, Y., & Takahashi, S. (2006). Dynamic synchrony of firing in the monkey prefrontal cortex during working-memory tasks. *The Journal of Neuroscience*, 26, 10141-10153.
- Otsuka, Y., Osaka, N., Morishita, M., Kondo, H., & Osaka, M. (2006). Decreased

activation of anterior cingulate cortex in the working memory of the elderly. *NeuroReport*, 17, 479-1482.

Maehara, Y., & Saito, S. (2007). The relationship between processing and storage in working memory span: Not two sides of the same coin. *Journal of Memory and Language*, 56, 212-228.

研究課題B 「身体化される心」

Naito, E., & Ehrsson, H. H. (2006). Somatic sensation of hand-object interactive movement is associated with activity in the left inferior parietal cortex. *The Journal of Neuroscience*, 26, 3783-3790.

伊藤良子 (2007). 感情と心理臨床—今日の社会状況をめぐって—. 藤田和生 (編著) 「感情科学の展望」 京都大学学術出版会 (印刷中).

Ashida, H., Lingnau, A., Wall, M. B., & Smoth, A. T. (2006). fMRI adaptation reveals separate mechanisms for first-order and second-order motion. *Journal of Neurophysiology*, 97, 1319-1325.

角野善宏 (2007). 「精神病」を病むということ. 河合俊雄・岩宮恵子 (編) 「新・臨床心理学入門」 日本評論社, pp.50-55.

研究課題C 「文化・社会的環境との相互作用」

Yoshikawa, S., & Sato, W. (2006). Enhanced perceptual, emotional, and motor processing in response to dynamic facial expressions of emotion. *Japanese Psychological Research*, 48, 213-222.

杉万俊夫 (2006). 質的方法の先鋭化とアクションリサーチ. *心理学評論*, 49, 551-561.

Watabe, M. (submitted). Building trust: An experimental study.

研究課題D 「進化と生涯発達」

Fujita, K. (2006). Seeing what is not there: Illusion, completion, and spatiotemporal boundary formation in comparative perspective. In Wasserman, E. A., & Zentall, T. R. (eds.), *Comparative cognition: Experimental explorations of animal intelligence*. Oxford University Press. pp. 29-52.

遠藤利彦 (2007). 語りにおける自己と他者、そして時間—アダルト・アタッチメント・インタビューから逆照射して見る心理学における語りの特質—. *心理学評論*, 49, 470-491.

子安増生 (2006). 幼児教育の現場におけるパーティシペーション. *心理学評論*, 49, 419-430.

Itakura, S., Ishida, H., Kanda, T., Lee, K., Shimada, Y., & Ishiguro, H. (submitted). How to build an intentional android: infants' imitation of a robot's goal-directed actions.